天文学とプラネタリウム

vol. 151

www.tenpla.net

今月のお題 「ようこそ地球へ!」

そう遠くない未来、地球に宇宙人が観光にやってくるような時代が来る。そんな時代を見越して、地球をどうアピールすると良いのか、みんなで考えてみました。

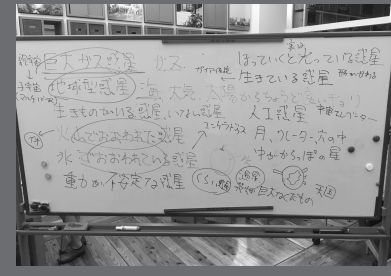
高梨直紘（東京大学）／平松正顕（国立天文台チリ観測所）

今年もプロキシマ・ケンタウリのハビタブルゾーンにある系外惑星が見つかったりと、アストロバイオロジー分野は話題に事欠かない状況でした。思えば、最初に系外惑星の存在が判明したのはわずか20年前のこと。最初のひとつが見つかってからは、雪だるま式に発見数が増えていき、今では3000個を超える惑星の存在が確認されるようになりました。太陽系によく似た惑星系もある一方で、太陽系とは似ても似つかぬ惑星の世界もこの広大な夜空に広がっているのかと思うと、なんだかくしゃみが出そうです。

それにしても、このペースで太陽系外惑星の発見が続くようなことがあれば、20年後にはどうなってしまうのでしょうか。地球以外の生命の存在が確認されているなんてのは序の口で、銀河系に張り巡らされた知的生命のネットワークに地球文明も参加しているなんていうSFチックなことだって、あり得なくはないかもしれません。グローバル化なんてもう古い、ユニバーサル化こそが地球が取り組むべき課題だ!なんて時代が来る。そう信じて天プラでは「宇宙人に地球に関心を持ってもらえるような観光案内を考えてみよう!」というワークショップを開催しました。おお、怪しい。どんなことをやっているのか、少しご紹介しましょう。

相手を知り、己を知れば百戦危うからず

宇宙人の皆さんに地球への関心を持っていただくためには、地球の魅力をアピールせねばなりません。そのために必要なのは、まずは己を知ることでしょう。138億光年の時空の中において、地球はどのような位置づけにあるのかを知ることからスタート。己を知ったら、次は相手を知ることが肝心です。現在見つかっている系外惑星の環境を学び、そこに住んでいるかもしれない宇宙人の気持ちになって、地球のどこに魅力を感じるのかを想像しなくてはいけません。重力の大きな惑星、海に覆われた惑星、風がいつも強く吹く惑星、昼夜のない惑星、太陽が複数個ある惑星…。彼らにとって地球のなにが魅力的に映るのか。これだ!という地球の魅力を見つけたら、次は宇宙人向けのキャッチコピー作りです。最後は、真にユニバーサルなデザインのポスター的なものを制作。そんなワークショップをやっています。実はこの一連のワークショップ、最終回はこれからなので関心のある方はぜひご参加あれ!



みんなでいろいろなアイディアを出し合いました。